

○平成18年度奨励研究

「料理活動が脳血管障害者の心理・社会機能に及ぼす

作業療法効果に関する研究」

作業療法学科 講師 ○伊藤文香 相原育依 村木敏明
付属病院作業療法科 若菜幸一

1. 研究目的

作業療法における調理活動を用いたアプローチは、新たな役割や元の役割を獲得するきっかけとなり、ICFの参加および主観的QOLの向上にも結びつく。さらに、作業療法での集団アプローチにより、心身機能の向上・維持にとどまらず代替法および技能の習得だけではなく、家庭復帰後の生活の再構築や仲間との交流による心理・社会機能向上がQOLに影響すると考えられる。

本研究の目的は、料理活動を用いた作業遂行に焦点を当てた作業療法介入の効果を、作業遂行能力および心理・社会機能の2つの側面から検討することである。

2. 研究方法

1) 対象者

料理活動グループに参加した男女12名（男性：4名、女性：8名）であり、平均年齢±SDは58.4歳±6.7歳であった。対象者の基本条件は、1)料理活動が「したい」、「しなければならない」活動である者、2)脳血管障害による片麻痺者で重度高次脳機能障害が認められない者、3)料理活動グループに参加し、研究への同意が得られた者、4)障害発生時から、料理活動に対する介入は未実施の者とした。

2) 手段

作業遂行能力は、AMPS (Assessment of Motor and Process Skills: アンプス) を用いて測定した。遂行能力の測定であるAMPSは、対象者のなじみのある環境で慣れているADL/IADL遂行能力を測定するのに使用され、技能による遂行分析により把握できる評価法である³⁾。AMPSにおける運動技能とは、ADL/IADL課題遂行中に自分自身や課題目的物を動かす、観察可能な目標思考的遂行の行為であり、AMPSにおけるプロセス技能とは、時間経過を通してADL/IADL課題遂行の行為が論理的に順序立て、適切な道具や材料を選び使用し、問題が生じたときに自分の遂行を適応させる、観察可能な遂行の行為である³⁾。課題は課題難易度が示されている83課題あり、そのうち対象者が「したい、またはしても良いと思ひ、なじみのある活動」を2課題遂行し、16の運動技能項目と20のプロセス技能項目を有能性に基づき、4点尺度で評定する。能力測定値は、項目難易度、課題難易度、評価者寛厳度等が考慮されて、ロジット(logits)という単位の間隔尺度でコンピューターソフトによって算出される³⁾。本研究においても、グループ参加前後に、対象者に2課題選択してもらい、課題遂行を観察した。心理・社会機能については、料理活動に対する重要度・遂行度・満足度をCOPM (Canadian Occupational Performance Measure) に基づき測定した。COPMは、半構造面接によって、作業上の問題を重要度、遂行度(どれくらいうまくできると思うか)、満足度(どれくらい満足しているか)を、対象者が10件法で評定するものである³⁾。作業遂行における対象者の捕らえ方の変化を知るための個別測定法であり、作業療法の成果測定法として開発されたものである。また、料理活動の状況と目標の変化については、本研究用に作成したアンケートを施行した。料理活動の状況と目標の内容は、6段階に設定し、参加前に以前の経験を聴取し、参加前後に現在の状況と目標を聴取した。1)未実施・不可:料理活動はしたことがない、できない、していない、2)留守番:留守番したときに飲み物を作ったり、出来合いの食事を温めて食べる、3)簡単:一人分の簡単な料理(インスタントラーメンなど)ができる、4)2,3品:2,3品の料理は同時に作ることができるが時間がかかったり、効率的でない、5)適切:適切な時間で料理を作ることができる、6)適切・食事会:適切な時間で料理を作ることができ、食事会の準備も楽しむ

3) 手順

料理活動の参加が担当セラピストから依頼のあった対象者に対して、担当セラピストから情報を収集した。活動の参加前に、料理活動グループの概要について説明し、AMPS、COPMの測定、アンケートを実施した。料理活動グループは、4～6名のグループで行われる。週に一回の頻度で開催した。作業遂行能力、包丁操作技能の程度、台所での移動手段及び立位バランスの評価により、個別に段階付けに従い、指導した。個別での指導が必要な場合は、随時他の時間を設定して指導した。参加後にAMPS等の再評価を施行した。

4) 分析方法

参加前後における、対象者全員のAMPS能力測定値の変化は、対応のあるt検定を用いた。

3. 研究結果

1) AMPSによる全体の能力測定値の変化

参加前後における能力測定値の運動技能能力値は、 $p < 0.0001$ にて有意に向上した。また、プロセス技能能力値は、 $p = 0.0041$ にて有意に向上した。

2) 各対象者の基本情報とAMPSによる個別の能力測定値の変化

対象者	年齢(歳)	性別	利き手	麻痺側	運動技能能力値(ロジット)			プロセス技能能力値(ロジット)		
					参加前	参加後	差	参加前	参加後	差
A	46	女	右	左	2.7	3.43	0.73	0.58	1.48	0.9
B	54	女	右	左	0.61	1.79	1.18	0.99	1.71	0.72
C	46	女	右	左	-0.39	0.32	0.71	0.6	0.67	0.07
D	61	女	右	左	-0.28	0.67	0.95	0.72	0.74	0.02
E	66	男	右	右	-0.06	0.99	1.05	0.55	0.65	0.1
F	60	男	右	右	0.92	1.18	0.26	0.74	0.9	0.16
G	55	女	右	左	0.58	1.42	0.84	1.16	1.24	0.08
H	58	女	右	左	-0.52	0.01	0.53	0.68	0.8	0.12
I	62	女	左	右	0.41	1.17	0.76	0.23	0.98	0.75
J	66	男	右	左	1.11	1.56	0.45	0.79	0.91	0.12
K	66	男	右	右	2.62	2.68	0.03	1.08	1.54	0.46
L	61	女	右	右	0.61	1.04	0.43	0.69	1.1	0.41
平均値	58.4	-	-	-	0.70	1.36	0.61	0.73	1.06	0.30
SD	6.7	-	-	-	1.01	0.91	0.32	0.24	0.34	0.30

3) 料理活動に対する重要度・遂行度・満足度の変化と料理活動の状況と目標の変化

料理活動に対する重要度・遂行度・満足度の変化では、遂行度において9名(対象者:A~G, I, J; 2点から5点上昇)に臨床上重要な変化があることが明らかになった。満足度においても9名において上昇(対象者:B~D, F~J, L; 4点から9点上昇)した。料理活動の以前の状況では、6名(対象者:A, B, D, I, J, K)が「適切・食事」であり、4名(対象者:C, G, H, L)が「適切」であり、対象者Eは「未実施・不可」、対象者Fは「留守番」であった。参加前後において、状況がプラスの方向に向上した対象者は11名(対象者H以外全員)であり、目標を達成した対象者は3名(対象者:A, B, J)いた。参加前後で目標をより高く設定した対象者は、5名(対象者:C, E, F, I, J)であり、参加後に目標を低く設定した対象者も3名(対象者:D, G, K)みられた。

4. 考察(結論)

AMPSの結果より、運動技能、プロセス技能ともに有意に向上したことが示され、作業遂行に焦点を当てた作業療法介入の効果が示された。

個別の能力測定値の変化では、統計的・臨床的にも明らかに変化があるとされている0.5ロジット以上の変化があった対象者は、運動技能能力では8名、プロセス技能能力では3名みられ、特に運動技能の向上が料理活動の遂行の向上につながったことが示唆された。

プロセス技能能力の向上は全体的に認められるものの臨床上の変化があったと思われる対象者も少なかったことから、今後、プロセス技能に関する介入の工夫の必要性が認められた。

料理活動に対する重要度・遂行度・満足度の変化では、遂行度において9名(2点から5点上昇)に臨床上重要な変化があることが明らかになった。満足度においても9名において上昇(4点から9点上昇)したことは、作業遂行に焦点を当てた作業療法介入が心理面においても効果のあることが示唆された。

参加前後の状況の変化をみると、11名において1段階から5段階プラスの方向に変化しており、料理活動に対する有能感の高まることが示唆された。本介入により、ICFの「参加」の向上に深く関係があるとされる有能感の向上を呈したことは、対象者に「参加」を促すことを示唆している。

目標の変化から、参加後に目標に達しない場合でも、目標を高く設定する対象者は5名みられた。このことは、作業遂行に焦点を当てた作業療法介入が、有能感の向上や意欲の向上につながる可能性を示唆している。逆に、参加後に目標を低く設定した対象者も3名みられた。これは、作業遂行の自己能力や環境などについて現実検討が可能となった可能性を呈し、在宅における生活の向上にも役立つことを示唆している。

5. 成果の発表(学会・論文等, 予定を含む)

伊藤文香 齋藤さわ子 相原育依 若菜幸一 村木敏明. 料理活動を用いた作業遂行に焦点を当てた作業療法介入の効果. (作業療法ジャーナル投稿予定)

6. 参考文献

- 1) Law M, et al(著), 吉川ひろみ, 上村智子訳:COPM カナダ作業遂行測定[第3版]. 大学教育出版, 2001
- 2) Fisher AG: Assessment of Motor and Process skills. 5th ed., Three Star Press, Fort Collins, 2003
- 3) 作業療法ジャーナル編集委員会編: EBOT時代の評価法. 作業療法ジャーナル増刊号 38(7): 533-539, 563-566, 2004